

戦争体験文庫第 65 回資料展示

銃後の守(2)

～吐田郷村出征軍人家族の会の記録から



令和 6 年 3 月 1 日～6 月 27 日

解題

前回に引き続き、吐田郷村出征軍人家族の会の記録を紹介していく。今回は昭和14年(1939)と15年の分を取り上げる。なお、3冊残る記録のうち、「才貳號」すなわち第二号とされている部分の一部として収められている。

記録者小島重太郎は、昭和12年11月に「長期膺懲コソ、長期抗日ヲ封ズル」必要があると説いていたが、その予期通り日中戦争は長期化した。戦線の拡大の一方で、主要都市の占領のような開戦当初に見られたような派手な戦果も報じられなくなり、実態としては泥沼化ともいえる。その中で、戦死者や戦病・戦傷によって内地へ送還される兵士の数は積み重なっていった。昭和14年1月18日には「向後村軍人後援会ヲ改称・拡大・強化サレ、銃後奉公会ト称ス」という記載がある。これは、戦争の長期化の中で、地域社会に出征兵士の援護を担わせるべく全国的に進められた軍人援護団体の再編（一ノ瀬俊也「軍事援護と銃後奉公会」『日本歴史』627、2000年）の一環である。

一方で、開戦2年を期に、昭和14年8月3日やその直後の記載にもあるように、事変勃発を期に応召した兵士のいわば「満期」凱旋帰還も相継ぐようになっていた。記録の記載や『吐田郷村出征軍人名簿』を見ると、実際には若干の時間を経て再召集となるケースも多い。ただ出征兵士が戦死、またはいったんでも帰還することは、家族の会にとって、いわば会員資格を喪失する会員が出てくることをも意味した。これに対して、昭和14年9月1・9日の世話人会と例祭では、いったん「帰還兵会員ハ一時休会ハ自由意志」として、会員が望むのであれば、会に留まれるような申合せを行っている。しかし、異論が出たのであろうか、10月4日には、「帰還家族会員ハ、翌月ヨリ月掛ナドハ徴収セズ、又実費人名表上ハ一時休会ノコト」として、軌道修正を行った。ただ、翌年5月15日の各大字神社巡拝や、9月25日の戦没者慰霊祭といった大きな行事の際には、「休会員」として行事に参加できるような手立てを行っている。戦死者家族の扱いについては触れていないが、別に出征者がいない限り、退会扱いになったと推定されるが、後の昭和18年7月31日の記載には、別に「英霊遺族軍人家族会」が組織されていたことが確認できる。

出征軍人家族の会としては、戦死者が出た場合、四十九日までの7日毎の忌日に、村内各大字を三分して、交代で参列するような体制が定着していった。

日中戦争開始以来の戦死者を合同で祀る慰霊祭は、前回

紹介分からしばしば見えているが（昭和13年7月7日・8月14日）、昭和14年4月30日・昭和15年9月25日と2回、はっきりと家族の会主催と分かる形で、名柄龍正寺で行なわれているのが確認できる。

会としての記録の合間に、記録者小島が個人的な所感を書き留める機会は、めっきり減っているのだが、昭和15年5月19日の記載は例外的である。村の奨兵会主催の招魂祭に、家族会の招待がなかったことをきっかけに、村当局が「銃後ニ対スル後援ノ冷タキ」として、強い村政批判を行っている。例として「銃後奉公会主催の祈願祭に参加者が少ない」「村の要人が、神に祈っても戦死する者は戦死するし、生還する者は生還すると発言した」「在郷軍人會も統制が乱れ、銃後奉公会の定例会に会員が出席しない」点を挙げている。会員の重複もある各団体の関係が見えづらいものの、昭和14年10月15日の記載で「会員ノ気持チモ変ッテキタ。人ノ気持チモコンナニ熱シ易ク冷メ易イモノカナ」と嘆いたように、社会全体として事変勃発当初の緊張や興奮が薄れてきたことは否定できないであろう。

加えて、戦争の長期化の中で、中央で進められていた政党の解散、近衛（文麿）新党構想、大政翼賛会成立といった「新体制」に准じて、即応してという名目のもとに、家族の会の事業は縮小、整理されていく傾向が、昭和15年の末頃から進んでいく。

昭和15年11月3日の世話人会、15日の例祭では、従来月2回行ってきた祈願例祭を1回に減らし、その例祭や合同慰霊祭についても、銃後奉公会の負担で行われることが決定している。これは、銃後奉公会から持ち掛けられたものという。会発足の際、家族の会以外にも祈願をする団体があるという意見に、激しく反発していた小島だが（昭和12年12月14日欄外記載）、これに対する感想は記されておらず、「会トシテノ事業ハ従来通り継続シテ行ク事ハ論ヲ待タヅ」とするのみである。

さらに12月1日の記載にも、同じ名目のもと、新規入営者・応召者の見送りは御所駅までではなく学校までとし、祝旗にも大字よりの日の丸以外は「絶対ニ廃止」という厳しい処置が記されている。これら上からの指令は、地域の側からの反発もあって若干緩和されつつも、「防諜上」という新しい理由で、これら兵士の歓送迎に制限がなされることが、後年の記載から確認できる。

昭和十四年度

一月一日 晴

輝ク戦捷ノウチニ迎ヘタ事変第二回ノ新年。此ノ日午後五時ヨリ、出征軍人武運長久祈願例祭及ビ応召軍人ノ武運長久祈願祭ヲ執行ス。当日関屋中村平作氏ヨリ神酒二本寄贈サル。又会ヨリ鏡餅一重（三升、一升四十三錢強計一円三十錢）ヲ御供ス。

応召軍人

名柄 久保儀三・池口正夫

東名柄 丸山正一・中村平八郎

増 榎田甚三郎

向後花園新聞舗ヨリ月一回戦地へ新聞ヲ発送シテ下サル

一月四日 雨

午後七時ヨリ各大字世話係リ二組ニ別レ、増福岡勇治郎君・森脇島田寅義君ノ傷病ニ付、家庭慰問ヲナシ金一封及一言主神社ノ御供物トヲ持参シタ。島田寅義君宅 寺田・宮戸・豊田・森脇ノ世話係 福岡勇治郎君宅 東名柄・多田・名柄・関屋・増ノ世話係

一月十三日 晴

多田村北村芳春君ノ百ケ日忌日ナノデ、会ヨリ御供物（線香一箱）ヲ持参シタ。当日ハ先方ヨリノ申越シモアリ、会員一同参列ハ見合ハス事ニシタ。

一月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。在郷軍人会・軍友会ヨリスルメノ御供アリ。終了後、一同分配ス。又松原亀治郎氏ヨリ中ローソク二本寄贈アリ、神前ニ灯ス。

尚又前田忠雄君ノ病氣平癒祈願祭執行。八時頃散会ス。

一月十七日 晴

豊田吉村甚七君ノ戦病ニテ内地帰還サレシニ依リ、

各大字世話係リ（森脇・宮戸・名柄・豊田）一同打揃ッテ家族慰安ヲナシ、金壺封（一円也）ヲ贈呈ス。

一月十八日 雨、小雪

午後六時ヨリ村銃後奉公会主催ノ大朝・大毎ノニューストキー活動写真アリ。家族モ招待セラレ、各家族人数宛ニテ入場券下サレ、見物ニ行キ同十時過ぎ解散ス。

注向後村軍人後援会ヲ改称・拡大・強化サレ、銃後奉公会ト称ス。

一月廿六日 晴

午後六時ヨリ寺田森一義君ノ百ケ日ニ、各大字世話係一同揃ッテ参拝。八時半終了。一同御馳走ニナリ帰宅ス。

一月卅日 雨雪後晴

龍正寺支障アリ本久寺ニ於テ午後七時ヨリ世話係参集。左ノ申合セヲシタ。

○一、帰還兵士歓迎ハ各大字ヨリ世話係二名宛（若シクハ会員）

○一、旧正月一日ハ午後一時ヨリ一言主神社参拝、祈願祭執行

○一、奉納木（松）ノ票石調製ハ山田亀太郎氏ニ依頼

一、片上佐平君母堂ノ病氣ヲ見舞フコト（東名柄中野新十郎・トヨダ木村安治郎・森脇世話係）

一、本久寺へ軍人武運長久祈願料トシテ金五十錢也ヲ奉納スルコト

一、神社々前清掃

一月卅一日 晴

午後六時森脇片上佐平君ノ母堂病氣見舞ニ、東名柄・豊田・森脇各大字世話係ガ、慰問家族ノ人々ヲ慰メタ。尚本久寺へ卅日夜世話係集会ノ席料ハ返却サレタノデ、出征軍人武運長久祈願料トシテ奉納ス。

二月一日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。終了後、社務所ニ於テ会計報告並ニ一月卅日本久寺ニ於テ世話係種々申合セ事項ヲ報告相談シー同ノ承認ヲ得タ。

二月三日 晴

午後七時ヨリ増・関屋・名柄各大字ノ世話係リガ増木村慶治氏ノ夫人ノ病氣見舞ニ行キ、家族ノ人々ヲ慰問シタ。見舞金一円也ヲ贈呈ス。

二月六日 降雪

御所駆着午後二時五十分ノ列車ニテ、宮戸吉村卯三郎・増木村幸夫両君ガ無事帰還サレタノヲ、家族会デモ各大字ヨリ二三名宛ニテ出迎ヒ、猛吹雪ノ中ヲ帰路ニ着ク。途中一言主神社ニ参拝、帰還報告ヲナシ解散。

二月八日 晴

御所駆着午後二時五十分ノ列車ニテ、中島清一君ノ無言ノ凱旋ヲ出迎フ。世ノ中ハ皮肉ナモノダ。同ジ梁瀬隊デ行動ヲ共ニシテキタ木村幸夫君ハ元氣デ六日帰還。ソレニ中島君今日無言ニテ、アゝ。同夜七時ヨリ百ヶ日ニテ家族会ヨリ、各大字二三名宛参列。尚仏前へ線香一箱オ供ヘス。

二月十日 晴

懐シノ郷里へ喪ノ凱旋ヲシタ歩兵伍長中島清一君ノ英霊ノ村葬ハ、午後一時ヨリ名柄小学校校庭ニ於テ、仏式ニ依リ厳カニ行ハレ、諸団体・一般村民多数参列盛儀ナリキ。会員モ一同参加。

二月十一日 晴

信用組合ヨリ各出征家族へ白砂糖七斤（時価一円九十八銭）ヲ戴ク。

二月十四日 晴

銃後奉公会ヨリ各出征家族へ、片上醤油店ノ瓶入

一升瓶五本（時価一円六十銭位）ヲ戴ク。

二月十五日 晴

午後七時武運長久祈願例祭ヲ執行ス。当日中野一族会ヨリ、ダシジャコ五百匁（時価一円九十銭位）ノ袋入ヲ各出征家族へ戴ク。

二月十九日 晴

旧正月一日デ神社記念祭リヲモアリ、午前十時ヨリ一同参拝。祈願祭執行。当日関屋大字ノ西芝義信君、戦病ニ依ル内地帰還ニ付キ、平癒祈願祭ヲ執行。御神饌ト御見舞金（家族）贈呈ス。

二月廿一日 雨後晴

午後二時ヨリ本久寺ニ於テ、寺及ビ檀家一同主催ニテ、出征軍人武運長久祈願祭執行サレ会員一同参拝。出征軍人生年月日記入ノ守札及御供物ヲ戴キ、四時帰宅ス。

二月廿三日 晴

午前九時ヨリ各大字世話係一名宛小島宅ニ参集。ソレヨリ軍人奉公会事務所・信用組合・中野一族会ノ方々ノ私宅へ参上。年末ニ寄セラレタル（家族）御厚志ニ対シ、御礼ヲ申上グベク訪問。ソレゾレ代表デ御礼ヲ申上ゲタ。

三月一日 晴

午後七時ヨリ武運長久祈願祭例祭執行。終了後、社務所ニ於テ神前清掃及ビ砂持チヲスルコトニ決定（旧十八日）。

尚当夜ハ豊田吉村治男君ノ病氣平癒祈願ヲナシ、帰途吉村氏宅ニオ伺ヒシ、家族ヲ慰問ヲナシ、見舞金壹円也ヲ贈呈ス。

尚銃後奉公会ヨリ戦地へ月二回新聞発送シテ下サル。

三月八日 晴

午前七時一言主神社々前ニ参列（一同）、出征軍人

ノ武運長久ヲ祈願シ、ソレヨリ各自持寄りノ器具ニテ、池ヨリ砂ヲ運ビ神社ノ清掃ヲシタ。

十一時半修了。社務所前広場ニテ、色飯ニ舌鼓打ち、御供ノ果子ヲ戴キ、午後一時何ダカ重荷ヲ下シタヤウナ清々シイ気持ニテ解散ス。

当日各方面ヨリ金品寄贈アリ。左ニ記ス。

一、金壺円也	東名柄	中野佐蔵
一、金壺円也	〃	中野千太郎
一、白米貳升	関屋	中野平作
一、神酒二本	森脇	伊藤二郎
一、神撰（菓子一籠）	【同上】	
一、神撰（〃）	森脇大字ヨリ	

三月十五日 晴

午後七時ヨリ出征軍人武運長久祈願例祭執行。

三月廿八日 曇リ

多田山崎幸司君祖母死亡サレ、本日葬儀ニ会員一同参列。

四月一日 晴

午後七時ヨリ出征軍人武運長久祈願例祭執行。常ニ家族ハ張り切ッテ業務ニ励ンデキル。

四月五日 晴

午後七時ヨリ村軍人奉公会主催、出征軍人武運長久祈願祭ニ参列。八時半解散。

四月七日 曇リ

中村空中サーカス団ヨリ各大字区長ヲ通ジテ、出征軍人家族（村出身）へ慰安ノ為メ、同団ガ御所堤桜花開花中開催ノ無料入場券ヲ各一枚宛寄贈ガアリ、各家族モ桜花観桜ヲ兼ネ一日ノ行楽ヲスルコトドラウ。

四月十五日 晴

午後七時ヨリ定例祈願祭執行。

四月廿一日 曇リ小雨

蒋介石ガ我軍占領地ノ攪乱ト主要各都市ノ奪還、ナラビニ第三国ヘノ偽装ヲ企図シタ、イワユル四月攻勢ハ現在大失敗ニ終リタルガ、我軍ニモ幾多ノ尊イ犠牲者アルモ、吐田郷村出身者ニハ一名ノ犠牲者ナク、コレモ神仏ノ加護ハ申スニ及バズ、各方面ノ熱心ナル御厚情、御後援ト深く感謝シ、我会員モ丁度本日ハ一言主神社ノ春季大祭ヲ朴シテ、午後一時ヨリ学校々庭ニ集合、各大字神社巡拝ヲナシ、最後ニ一言主神社ニ於テ武運長久ヲ祈願ナシ、降雨中ヲ午後四時半散会ス。

四月廿三日 晴後雨

午後六時ヨリ大阪朝日新聞主催トーキー映画ノ会ニ花岡新聞舗主ヨリ各家族ニ招待券ヲ下サレ、一同皇軍奮戦辛勞ノニュースヲマザマザト目前ニ眺メ、只感謝ト感激ノ涙デー巻一巻ヲ観テ、午後十時半頃、子弟ノ奮戦振リヲ胸ニ一同散会ス。

四月廿六日 雨

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ各大字世話係リ参集。左ノ申合セ事項決議ス。

一、四月廿四日動員下命、五月一日入営ノ応召者四名ノ武運長久祈願祭ヲ廿八日執行

一、今事変戦死者（本村出身）七名ノ追弔会ヲ、龍正寺ニ於テ卅日午後七時ヨリ執行、遺家族ヲ招待スルコト

一、案内状ヲ出スコト

~~案内状文案ハ小島重太郎氏ニ托シ、各大字世話係リニ廿八日迄ニ千元迄届ケ遺家族~~

案内状文案ハ廿八日迄ニ小島重太郎氏作製シ、各大字世話係リヘ届ケルコト。

案内文

前略

桜花爛漫ノ時季モイツシカスンデ、野モ山モ、モウ日ニ沁ムヤウナ深イ青葉ノ候トナッテ参リマシタガ、月日ノ立ツノハ早イモノデ、御令息何某君名誉ノ戦死サレテヨリ早ヤ何ケ月モ過ぎ去リマシ

タ。次第ニオ淋シイ事デ御座イマショウ。オ慰メ申シマス。就テハ本月卅日午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ、オ宅ノ某君始メ、今事変ニ名誉ノ戦死ヲ遂ゲラレシ本村出身者ノ御英霊ノ追弔会ヲ催シタイト存ジマスノデ、万障オ繰合セ御参列下サイマサウ。尚当日英霊ノ御写真モ共ニオ祭り致シタイト存ジマスカラ、御拝借願ヒマサウニ、先ハ右御案内迄。

四月廿八日

草々
家族の会

某様

四月廿八日 晴

午後七時ヨリ応召者ノ武運長久祈願祭執行。

応召者氏名（四月廿四日下命）

森脇 宮阪熊男

増 木村高造

名柄 末吉行雄

豊田 山本幸治

当日併セテ、寺田梅田安造君病氣入院（呉海軍病院）中ナノデ平癒願モ執行。

四月卅日 雨

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ、檜原九品寺清水師導師ニテ、英霊ノ写真モ共ニ祭り、左ノ七氏ノ追弔会ヲ本会主催ニテ催ス。当日ハ降雨煙ル中ヲ会員揃ッテ参列。サンモニ広キ本堂モギッシリト。清水師ノ読経ニ唱和シテ、会員ノ南無阿弥陀仏ノ声ノミ。英霊サゾカシ永遠ニ安ラカニ眠ッテ下サル事デアラウ。尚当日ノ遺家族宛ノ案内状及ビ英霊ノ贈名並ニ当日ノ費用左ノ通り（費用全部ハ会費計ヨリ支出ス）。

前略

桜花爛漫ノ時季モイツシレカスンデ、野モ山モ、モウ目ニ沁ムヤウナ深イ青葉ノ候トナッテ参リマシタガ、月日ノ立ツノハ早イモノデ、御令息何某君名誉ノ戦死サレテヨリ早ヤケ月モ過ぎ去リマシタ。次第ニオ淋シイ事デ御座イマショウ。オ慰メ申上ゲマス。就テハ本月卅日午後七時ヨリ名柄龍

正寺ニ於テ、オ宅ノ某君始メ、今事変ニ名誉ノ戦死ヲ遂ゲナサッタ本村出身者英霊ノ追弔会ヲ催シタイト存ジマスノデ、万障オ繰合セ御参列下サイマサウ。尚当日御英霊ノ御写真モ共ニオ祭り致シタイト存ジマスカラ、御拝借願ヒマサウニ、先ハ右御案内迄。

草々不一

（四月廿八日）差出シタ月日

家族会

某様

英霊ノ贈名（焼香順位）

義譽忠烈芳勲居士 北村芳春軍曹

同 清節仁道居士 中島清一伍長

同 誠心一道居士 森一義伍長

同 英信忠雄居士 吉村忠雄上等兵

英譽良雄居士 北村（旧姓中川）良雄伍長

忠瑤院薫烈居士 橘重太郎伍長

俗名 浅田清治（贈名不明）

軍馬・軍犬・軍鳩・諸靈魂

当日費用

一、金 五十銭 ローソク代（龍正寺払）

一、同貳円 導師ノ布施

一、同参円 番僧ノ布施（三人）

一、同参円 塔婆料

一、同参円 龍正寺へ謝礼

一、同参円七十五銭 竹政払 ネーブル二貫目・リンゴ十五

一、同参円 富永払 マンナ百五十

（一銭マンナ・押菓子箱入六ツ）

一、同 七十二銭 富永払

（二十六日世話係集会茶菓子）

一、壹円五十銭 井関払センベイ

合計貳十円四十七銭 以上

五月一日 晴

午後七時ヨリ定例祈願祭執行。終了後、社務所ニテ種々事業及会計ヲ報告ス。

尚当夜終了後、東名柄・多田・寺田ノ世話係リ諸氏が寺田梅田徳市氏宅ヲ訪問、安造君ノ病氣見舞ヲナシ、色々オ慰メシテ見舞金（壹円）ヲ贈呈、帰宅

ス。

五月十五日 晴

午後七時ヨリ出征軍人武運長久祈願例祭執行。並ニ名柄井関清治・豊田吉村三郎両君ノ戦病傷平癒祈願モ執行。

併セテ名柄有江一男君応召入営ノ武運長久祈願祭執行。

尚当夜多田山崎健蔵氏ヨリ御神酒一本・菓子若干トヲ御神前ニ饌セラレオ下リヲ戴ク。

五月十九日 晴

午後一時ヨリ村奨兵会主催、村内忠死軍人招魂祭ニ会員一同参列。終了後、軍人分会ヨリ家族慰問トシテガラス半打（コップ）宛戴ク。

当日式典終了後、森脇木本栄治君、戦傷ノ為メ家庭ヲ慰問。見舞金一円也ヲ贈呈ス。（梅田源治・小島重太郎両氏ニ托シテ）

五月廿九日 晴

関屋吉村基治君令息・増梅田孝司君令息死亡サレタニ付キ香奠各一円也宛ヲ持参ス。

午後二時五十分御所駅着ノ列車ニテ、寺田森勝治君無事凱旋、帰還サル。森兵蔵氏ヨリ本日午前十時半頃通知承ケタノデ、各大字世話係リニ通知出来ズ、止ムナク池口角治郎・小島重太郎両氏代表ニテ~~迎~~御所駅迄迎フ。

六月一日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。収穫期モ近ヅキツ、アルノニ会員多数参列。

六月九日 名柄谷口栄治君除隊、帰還ス。

六月三日 晴

午後一時ヨリ村銃後奉公会主催ニテ、名柄小学校校堂ニ於テ、森勝治氏、御所境内書店主ノ戦地ヨリ帰還実戦談アリ。会員モ揃ッテ聴講、今更ラ第

一線将兵ノ劳苦ヲ想ヒ、益々長期戦ニ対スル銃後ノ我々会員自彊自戒ヲ心ニチカヒツ、后四時半散会ス。出席者ニ菓子（アンパン）一袋宛戴ク。当日ヨリ在郷軍人会参拝サル。

六月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。農繁期ニモ拘ラズ多数参列。今期モ昨年ノ農繁期ノ通り、村銃後ノ守リモ益々固ク、劳力奉仕モ甲乙丙ノ三種ニ配ケ涙グマシイバカリノ銃後ノ後援、只感謝ノ涙アルノミデアル。

甲 ~~七~~六区 乙 ~~五~~四区 丙 二区

尚又各学校児童ノ劳力奉仕モ、日増シニ増加、流石ニ日本臣民ナレバコソト、我ガ日ノ本ニ生レ来タ事ヲ、今更ラ感謝ノ涙新ラタニ銃後守リニ、知ラズ知ラズ頭ガ下ル。

六月廿一日 晴

増福岡勇治郎君、午前十一時頃通知モナク退院、帰還サル。

六月六日（ママ） 晴

関屋橘武夫君満期除隊。午後二時三十分御所駅着列車ニテ、無事帰還サレタノデ、大字（関屋）全部ト会員世話係リトガ迎ヒニ行ッタ。

六月卅日 晴

名柄石本史雄君~~征戦~~聖戦参加二ヶ年、無事本日除隊、帰還サレタ。秘密裡ニ帰ヘラレタノデ出迎ナシ。

七月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。尚当夜、宮戸木村幸雄（病氣内地帰還入院）・東名柄中島徳松君（病氣戦地ニテ入院）両君ノ平癒祈願ヲモ併行ス。

七月二日 晴

増山田馬蔵・寺田梅田櫛太郎両君、無事日出度ク

帰還サル。各大字世話係御所駅迄出迎フ。

七月四日 晴

宮戸木村幸雄君、病氣内地帰還、入院サレタノデ、森脇・豊田当該大字ノ世話係一同、家庭慰問シタ。見舞金壱円也ヲ贈呈ス。

七月七日 晴

聖戦コ、ニニヶ年。其ノ間ニ於ケル皇軍将兵ノ忠勇ト戦績ハ、アラタメテ申スマデモナク、世界モ其ノ驚嘆スベキ厳タル事実ノ前ニハ、目ヲ閉ジ、耳ヲ掩フコトハ出来ナイ。シカシナガラ経済上ノ諸問題ヤ思想上ノ問題ニ就イテハ、未ダ一部ニ思白カラヌ動キガアツテ、絶対安全ト氣ヲ許スワケニハユカヌ。又外交上ニミルトキ、今日デハ国民全般ガ第一ノ敵ガ経済的ニハ英国デ、ソノ次ガ思想的ニハソ聯デアルコトヲ知ツテ居ルニ拘ハラズ、ソレニ対シテ断固タル処置ニハ出テ居ナイ有様デ、未ダ未ダ戦ハ峠ニ来タトハ云ヒ難イノデアル。然ルニ出征軍人ヲ出シテ居ル家族ノ人々ハ、戦争ノ実感ヲヒシト身ニ受ケテキルガ、ソウデナイ奴等ノ間ニハ、日常ノ生活ガ戦争中トハ思ワレナイ位ニ豊カデアル関係上、戦争ヲ他人事ノヤウニ考ヘテ、何日迄カ、ツテモ構ハナイト云フヤウナ、不心得ナ思想ガ底流ヲナシテ居ハシマイカ。作戦行動ガ一日モ早く終ルヤウニ、各人ガ、国家総力戦ノタメニ努力シテキルトモ思ハレナイ節ガ感ゼラレル。コノヤウナ不心得ノ国民ガアルナレバ、聖戦遂行ノ途中ニ腰ガクダケルヤウナ事が決シテナイト、果シテ断言出来ルダラウカ。聖戦第二週年ヲ迎ヘルニ当リ、直接戦争ノ感作ヲ受ケナイ上流・富豪・知識階級・股眼産業関係者・享樂事業者ナドガ猛省シ、総テノ人々が、人一人ヲ戦場ニ送り出シテ居ルツモリデ、全力ヲアゲテ総力戦ノ各部門ニ参加スルコトノ必要ヲ痛感シ、強調シテ今日ノ記念日ヲ迎ヘル。国民一日戦死ノ心持ち、否覚悟ヲ以テ望メ。

当日午前七時、名柄小学校々庭ニ村民一同参集。

皇居ヲ遙拝、国威伸長ヲ祈リ、一分間ノ皇軍戦没勇士ヘノ黙祷ヲナシ、ソレヨリ一同揃ツテ一言主神社ニ参拝、出征軍人ノ武運長久ヲ祈願ナシ終了。夜ハ七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ村軍人奉公会主催ニテ、村出身支那事变戦没勇士ノ追弔慰霊祭ニ家族会一同参列。終了後県社会課志野氏ノ時局講演会アリ、十一時終了。

当日関屋東野政治郎氏死亡。午後四時出棺。葬儀ニ参列ス（世話係各大字）。香料壱円贈呈。

七月八日 晴

村軍人奉公会主催、大正座ニ於テ時局漫談・浪曲大会ノ招待状、出征軍人家族ヘ二枚宛配布サレ、午後七時ヨリ聴講ニ行キ、十一時頃一同満足裡ニ帰宅ス。

七月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。家族会ニハ関係ハナイガ、当日午後三時名柄龍正寺前ニ、吐田郷村民各一戸宛、麦ワラー束ヅ、持ツテ集合、三時半出発、俗称大辻コバヘ参集。近年大早~~ハ~~魃ニテ雨乞ノ祈願ヲナシタ。

八月一日 晴

午後八時ヨリ定例祈願祭執行。

八月三日 晴

大君ノ勅ヲ奉ジテ、暴戾支那膺懲ノ聖戦ニ、今事变勃発直後勇躍征途ニツキ、千古不滅ノ武勲ヲ北支ノ中支ノ戦野ニ残シタ我等ガ精鋭部隊、藤江本部隊~~及ビ近藤~~及ビ所属部隊ノ各勇士ガ、満ニヶ年振りデ晴レノ帰還ヲシタ。

【余白挿入】八月四日（晴）

増木村平治郎召集解除、帰還。

八月七日 晴

村申合せニヨリ帰還兵士ハ（今後）、一言主神社迄

(御所駅ヨリ) 自動車ニテ帰ヘリ、当該大字ダケ
ガ一言主神社迄出迎ヘル事ニナッタ。当日ノ帰還
兵士

増岡田作治、寺田吉村繁治、森脇米田善治・梅田音
治郎・土田直治、多田吉川綾夫・吉川辰治、寺田梅
田滋、名柄清水常太郎ノ九名

八月八日 晴

当日帰還兵士

名柄小島育治郎・出羽新一郎、増中村祀雄ノ三名

八月九日 晴

当日ノ帰還兵士 森脇米田樽男。

八月十三日 晴

当日帰還兵士

寺田高橋淳介、増中川市五郎、豊田吉村繁一、森脇
米田善雄ノ四名

八月十五日 晴

午後八時ヨリ定例祈願祭執行。終了後社務所ニ於
テ中野両家ヨリ、中元慰問品ヲ各家族宛ニ戴ク事
ヲ報告。今更ラナガラ度々ノ御慰問、我々家族ト
シテハ只々感泣ノ外ハナイ。

席上小島重太郎君ノ会計係リハ満場一致留任ト決
定。

尚慰問品ハ、本月二月廿日以降ノ帰還兵家族全部
ニ下サルコトニナッタ。戦病死者ハ霊前トシテ別
ニ下サル。

~~八月十六日 晴~~

~~午前六時頃ヨリ~~

各大字別左ノ如シ

名柄 三十一個 (内霊前一)

東名柄 十二個

増 十四個

関屋 九個 (内霊前一)

多田 七個 (内同一)

寺田 十一個 (内同一)

豊田 十四個

森脇 十九個

宮戸 八個

合計 百二十五個

慰問品ハ三輪ソーメン各一貫目宛箱入 (壱円八十
銭位)。

尚中野両家ヘオ礼差上代表者

森脇梅田元治郎、名柄小島重太郎、東名柄中野利
吉、多田山崎健蔵、増中村清太郎ノ各氏

八月十七日 晴

当日ノ帰還者

関屋中川菊治郎、森脇西川寅男、豊田吉川芳松、宮
戸高村一郎、同木村安治

八月二十二日 晴

名柄吉村秀忠雄君ノ一週忌ヲ営マレタノデ、会ヨ
リオ供物果物 (リンゴ) (壱円) ヲ霊前ニ供へ、池
口角治郎・小島重太郎両氏代拝、持参シタ。

八月二十三日 晴

森脇島田寅義、増中川稔両君帰郷、除隊。

八月卅一日 晴

名柄池口義堯、東名柄中野忠一・中島徳松各氏各
君除隊、帰郷。

東名柄中村平八郎君、廿三日帰郷、除隊。名柄森本
幸太郎君廿三日除隊、帰郷。

~~関屋東野君現役ニテ満期八日市新京航空隊ニ入隊
ス~~

九月一日

今日ハ興亜奉公日実行ノ最初ノ日デアル。本日実
行ノ要綱ハ、中央地方等ニ於テ、既ニ数ヘ立テラ
レテキル黙祷・自誓・一汁一菜・禁酒・禁煙・早起・
早眠・精勤労働・流汗鍛錬等多岐多端デアル。何レ
モ前線将兵ノ労苦ヲ偲ンデ、奉公ノ精神ヲ具現ス
ルニ外ナラス。日独防共協定ノ破綻、阿部内閣ノ

誕生ト云ッタ内外ノ新情勢ハ一段ト緊張色ヲ盛上
ゲテ、困苦艱難ニ満チタ戰場ヲ偲ビツゝ、我ガ国
民ハアゲテ度マシヤカナ一日ヲ過サネバナラナイ。
午後八時ヨリ祈願例祭執行。並ニ応召入隊者、森
脇西川忠利、名柄小島一二三両君ノ武運長久祈願
祭併行。当夜社務所ニ於テ左ノ申合セス。

一、神社参道路修繕並ニ記念樹植付ケヲ決行（十
日）。会員各一個宛及出征帰還兵。

一、帰還兵会員ハ一時休会ハ自由意志

九月二日 晴

名柄井関清治、豊田山本勝両君、病氣、帰還入院ニ
付キ、当該大字世話係家庭慰問並ニ見舞金壹円也
ヲ贈呈。

九月八日

森脇大字宮阪治雄君マラリア病ニテ陣没サレシ訃
報ヲ萩野隊吉川軍医ヨリ通知アリ。当夜各大字世
話係リ一同弔問ス。帰途梅田源治君氏宅ニテ左ノ
事項ヲ申合セス。

一、神社清掃及ビ記念樹植付ケヲ宮阪君戦病死ニ
付キ延期（一時）

一、帰還兵士ノ会員ハ翌日ヨリ一時休会スルコト
ハ自由意志ニ依ル

一、宮阪君ノ霊前参拝ハ忌日（三七日・五七日・七
七日）ニ限り各大字三ヶ大字宛ニテ参列

一、総テハ従前戦死病者ノ例ニ依リ実行

（宮阪君ハ八月十九日入院（野戦病院ニ）同廿
九日午後七時四十分死亡）

九月十日 雨後晴

森脇和田、名柄梅本・末吉、森脇高橋、豊田木村諸
君応召、武運長久祈願祭執行。

当日森脇宮阪治雄君霊前供物（三円）（乾物一式ニ
テ）ヲ持参オ供ヘシタ。

九月十四日 晴

午後八時ヨリ寺田森兵造氏負傷サレタノデ、豊田

大字世話係リ名柄世話係、寺田世話係リトガ見舞
ニ行ツタ。見舞金壹円ヲ贈呈ス。

九月十一日（ママ） 晴

森脇宮阪治男君二忌日霊前参拝。森脇、豊田、宮戸
三ヶ大字会員一同。

九月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。当日ハ秋季大祭デ神
社ヨリ御膳ヲ戴キ各会員一同ニ配布ス（餅）。

多田大字世話係リ西村市太郎、吉川康太郎両氏ニ
変更。

九月十七日 雨

森脇宮坂君ノ三七日ニ関屋、増、名柄ノ会員一同
霊前参拝。

九月廿五日 晴

寺田森一義君一週忌ニ付キ会ヨリ仏前供物（菓子
一円）ヲス。

九月廿八日 曇り後雨

午後六時四十三分御所駅着列車ニテ、森脇宮阪治
男君無言ノ凱旋サル。武運ツタナク病没英霊ノ心
中ヤ如何ニ。

我ガ家族会員一同、秋雨煙ル中ヲ駅迄出迎フ。同
八時半名柄小学校忠魂碑前ニテ、役僧ノ読経終ヘ
ナツカシノ我ガ家ヘ静カニ帰ヘラル。

九月廿九日 曇後雨

十月二日ガ宮阪君ノ村葬儀執行予定ナノデ、二日
迄ノ三日間ニ七七（四十九日）迄ヲ繰上ゲ毎夜
営ムコトニナリ、家族会員モ三ヶ大字宛オ参リス
ルコトニナッタ。

十月一日 晴

午後七時ヨリ祈願祭執行。当日東名柄前田忠雄君、
増梅田初治両君帰還ス。

十月二日 晴

宮阪治男君村葬ハ仏式ニ依リ執行。香料二円也ヲ呈ス。

十月四日 晴

午後八時ヨリ龍正寺ニ於テ各大字世話係参集。信用組合ヨリ空俵(千百表)ヲ原価(二十銭位)ニテ分配シテ下サルノデ(家族会員ノミニ)、各大字家族会員ノ作付キ段別ニ準ジテ分配スルコトニ決メタ。(一段歩ニ付ハ一枚七分ノ割)

尚左ノ事項ヲ申合セス。

一、神社杉並木、神前清掃及ビセキヤ中村兵治氏寄贈ノ松並木ノ植付ケ十日ニ奉仕スルコト。尚当日出征帰還兵士モ奉仕スルコト

一、帰還家族会員ハ、翌月ヨリ月掛ナドハ徴収セズ、又実費人名表上ハ一時休会ノコト。コノ申合
~~セ~~項十月十五日以後実行ノコト

一、世話係リハ各大字内ニテ改選報告ヲナスコト十一時過解散。

十月五日 雨

多田北村芳春君ノ一週忌ナノデ、会ヨリ霊前供物(カチドキナシー貫目、代一円也)ヲ池口角治郎・小島重太郎(多田世話係不在)二名持参、オ供ヘス。

十月七日 晴

本村始メテノ従軍看護婦増植田フミエ嬢ノ出征ヲ、会員一同午後一時半ヨリ御所駅迄見送リス。

十月十日 晴

神様モ我等会員ノ赤誠ヲ聞キ召シタカ、二三日来ノ雨モ今日ハ止ミ、雲間ヨリ照ル秋日ヨリ、~~午後~~午前中ハ各大字世話係リヨリ一名宛、関屋中村兵治氏寄贈ノ記念松ノ根マハシニ行キ、昼迄ニ龍正寺前迄車ニテ引出シ、午後ヨリ会員一同武運長久祈願ノ長旗ヲ先登【ママ、先頭】ニ、帰還兵諸君モ

車ノ前後ヨリ神社ニ到着。記念ノ植付ケヲ完了、ソレヨリ松並木道路及ビ神前ノ清掃ヲナス。終了後神前ニテ一同参礼、祈願ヲナシ、神苑ニテ神酒ヲ戴キ、一同清々シイ気持ちニテ四時過ギ解散。

当日寄附者

記念樹(松)	直径四寸位	セキヤ中村兵治
神酒二本	和光桜(一本一円四十銭)	久保徳三
神酒一本		伊藤二郎
御膳(菓子)	一貫目	同

十月十五日 晴後雨

秋祭りデ午後三時ヨリ祈願祭執行。例年ノ通り宮戸大字ノ御輿ノ渡御ヲ拝シ、神前ニテ甘酒ヲ戴ク。尚森脇梅田櫓次郎氏ヨリ、アラレー罐(代三円位)ヲ会ノ祈願ニ供ヘラレ後、各自分配。

増植田フミエサンノ出征、武運長久祈願オモ併行ス。

名柄小学校ヨリ家族会、運動会(十六日)ノ招待状ヲ各家族ヘ配布方依頼サレ、各世話係リ受任シ配布ス。

此ノ頃ハ我吐田郷村ヘモ大分帰還兵モアリ、会員ノ気持ちモ変ッテキタ。人ノ気持ちモコンナニ熱シ易ク冷メ易イモノカナ。デモキットキット事変解消迄頑張ッテ見セルゾ。ソレガ銃後ノ我々国民ノ務デアルト思フ。否務デアル。

【欄外追記】

当日豊田世話係吉村徳三郎・吉村進一郎・山本ニ治改選、関屋中村平作・中村兵治改選

十月十八日 晴

関屋中島清治君一週忌ニツキ、会ヨリオ供(ナシー貫目(一円)シタ。名柄池口角治郎・小島重太郎、関屋中村兵治氏三名持参。

十月廿日 晴

豊田吉村孝雄君・平田文男君召集解除、帰還サル。

十月二十五日 曇リ

南葛城郡主催ニテ御所■座ニ於テ出征家族慰安
大浪曲大会開催。京山小円嬢外数人ノ大熱演ヲ午
後一時ヨリ御所小学校々堂ニ招待アリ。多大ノ土
産物迄戴キ、午後七時頃一同飲ヲ尽シテ解散。
南葛城郡町村長会主催。

十一月一日 晴
祈願例祭執行。並ニ増吉村宗一君、宮戸吉村一男
君ノ病氣平癒祈願ヲモ併行ス。

十一月十三日 曇リ
午後七時ヨリ祈願例祭執行。本日寺田森兵藏氏来
リ（小島宅）、負傷本復祝ノ印ニトテ神酒代トシテ
金貳円也ヲ寄贈サル。

十一月十五日 曇リ
午後七時ヨリ祈願例祭執行。収穫期ニ拘ラズ参列
者多数。
各所ニ観ル各種団体ノ美シイ労力奉仕ノ状影、永
久不変ノ銃後ノ後援、我日ノ本ナレバコソト皇恩
ノ有難サトニ只感激アルノミ。各大字ノ労力奉仕
ハ例年ノ定メラル通り。

十一月廿六日 曇リ雪
森脇片上喜十郎氏母堂ノ葬式ニ午後三時ヨリ、収
穫期ノコト、テ、代表ニテ池口角治郎・小島重太
郎両氏参列。香料壹円也ヲ呈ス。

十一月廿八日 晴
午後七時ヨリ本年度現役入営者二十一名ノ武運長
久祈願祭執行。オ守リ御神饌ヲ呈ス。

十一月卅日 晴
午前九時十分御所駅発列車ニテ本年度合格者、最
初ノ入営兵ヲ御所駅迄歓送ス。
銃後ノ守リ益々固ク、今秋収穫期モ中、小学校生
徒、村民ノ涙グマシイ労力奉仕ハ日々続ケラレテ
キル（校、乙、丙ニ分類）。

十二月一日 晴
午後七時ヨリ祈願例祭執行。

十二月二日 晴
森脇片上善十郎氏ノ葬儀ニ、午後三時、小島・池口
両氏代表ニテ参列。香料一円ヲ呈ス。一忌日間ニ
父母ノ御死亡、御氣ノ毒ト云フヨリ外ニオ慰メス
ル言葉モナシ。

十二月四日 晴
宮阪治雄君ノ百ケ日ナノデ、池口角治郎・小島重
太郎・梅田源治諸氏代表ニテ参拝。仏前ニ御供物
（線香）ス。

十二月十日 雨後晴
名柄富永宗次郎氏母堂死去。葬儀ニ参列ス。香料
一円呈ス。
尚当夜本久寺ニ於テ各大字世話係リ参集。左ノ事
項ヲ申合セス。
一、戦線兵士ヘ会ノ事業報告及ビ慰問文、小学生
慰問文同封、発送ノ事

十二月十五日 晴
午後七時ヨリ祈願例祭執行。

十二月二十三日 晴
信用組合事務員一同、殊ニ吉村明・中野佐平両君
ノ御努力ニ依リ、本年一ヶ年分ノ本会事業報告書
並ニ慰問文（半紙四百枚）ノトウシャバンズリヲ
御引受け下サレ、全部スッテ下サッタ。又学校ニ
依頼ノ小学生慰問文モ、学校ヨリ持ッテ来テ下サ
ル。

十二月二十六日 晴
午後八時ヨリ龍正寺ニ於テ各大字世話係参集。事
業報告書・慰問文・小学生慰問文封入、全部（八十
七通）投函ス。

尚当夜多田北村利一君負傷、内地帰還入院ニ依ル
家庭慰問、並ニ見舞金贈呈ヲ宮戸吉村徳太郎氏ニ
依頼、同氏ヨリ贈呈サル。

奈良県庁文書 1-S14-62

『皇后陛下御下賜品一件』より

出征勇士の御家族に贈る

この度の支那事變について貴家に於かれましては一家の柱石も頼まれる方が御國の爲に出征せられまして御苦勞下さつて居ります事に對し心から厚く御意を申し上げます

尚御留守宅では定めし何かご御不自由の點も多い事と深く御察し申上げる次第であります

斯様に皆様が一家全体を擧げて御奉公の真心を捧げられますことに對し上 皇室に於かれましては日夜 大御心を寄せさせ給ひ洵に畏き極みであります更に又先頃 皇后陛下にはひこしは皆様の上に御心を留めさせられ恐れ多くも 思召を以て御内帑金を下賜あらせられますごにもいごも有難い 御歌を拜し奉りました海よりも深く山よりも高い 御坤徳の起唯々慈泣の外御座いません

就ては今回 御下賜金の一部にて御歌を謹寫し皆様に御頒ちする次第であります何か卒皆様に於かれましては永く此の 御仁恵を賜深く銘記せらるゝごにも一層奉公の誠を致されんことを祈る次第であります

政府を始め縣廳や縣政區司令部及市役所や町村役場に於きましてはこの深い 御仁恵を奉體いたしまして關係各方面にも聯絡をこりながら皆様に對し出来得る限り慰問なり相談を申上げる事に致して居りますから御留守宅で愚案に餘る事や心配事なごがありましたならば何事によらず心おきなく打ち明けて御相談下さい

さて御出征下さいました方は命を捧げて御國の爲に御奮し下さつてあらぬにはありませんが時につけ折にふれては遠い故郷の空を眺めな

出征者留守宅の心構へ

一、親子兄弟は仲好く嫁姑は睦しく暮しませう

二、妻は操を守つて清く正しく子供の養育を怠らぬやう致しませう

三、家内一同力を合せ一家の事はなるべく一家で済ませよう

四、出征した人を絶えず勵まし家内の心配事を知らさぬやうに致しませう

五、出征軍人の家としての名譽をますく輝し近所隣の手本になるやう務めませう

支那事變出征勇士奈良縣後援會

から「父上母上は御達者で居られようか兄弟は仲好くして居るか子供は無事に育つて居るか妻は清く正しく過して居るか、母ご妻ごは圓滿に暮して居るだらうか、ごうそ下の者は上を敬ひ上の者は下の者を慈んでいつまでも一家睦じく心を幅せ力を一つにして留守宅を立派に守つて決して世間の物笑ひになるやうな暮し方や素振りをせぬやうに只そればかりが氣がかりだそれさへ立派にやつて呉れるなら自分はいつごころ若輩の戦死を遂げたさてもう何んにも想ひ遣す事は無い」などと遙に御宅のことにも思ひを馳せられる時もありませう

もごより皆様の御宅では戦場で御苦勞下さつて居る方に對し決してそのやうな心配をかけられるやうな事は微塵も無いとは倍するのでありますが、畏くも有難い 御歌を拜しましたこの際ごうぞ一層心をひき締めて益々立派に御留守居の役目を果して戴き出征せられました御家の名譽をいよく輝し近所隣の御手本になる意氣こみで明るく正しく仲好く御過し下さいませうくれぐれも御祈り申し上げます

そこで皆様の御心構へにもご別紙の五箇條を掲げましたから御家内中の見易い所に御貼になつて一家擧つてこのやうな御氣持で元氣に立派な暮しを續けて戴けば洵に仕合せなことだご存じます

昭和十三年一月二十七日

支那事變出征勇士奈良縣後援會
會長 奈良縣知事 三島 誠也

昭和十五年

一月一日 晴

午後二時ヨリ祈願祭及例祭及応召者武運長久祈願祭併行。当日会ヨリ鏡餅一重奉納（一斤七十銭ノ割、ツキ上ゲ）御所朝日堂ニ注文。

応召者

浅田保勇・梅田保・宮阪稔・前田忠治・森岸雄
当日中村平作氏ヨリ神酒一本寄贈、奉納ス。今、我等一億同胞ガ、心新シク清ラケク迎ヘル支那事变第四年ト紀元二千六百年。コノ年コソ肇国ノ大精神ヲ想起シテ、我等祖国日本ガ尊クモ課セラレタル世界的大使命ヲ達成スベク、一大飛躍ヲナスベキ年デアル。今ヤ皇軍ノ武威全支ニ洽ネク、ソノ傍ラ東亜ノ新秩序建設ガ着々進展シツ、アルコトハ、我等銃後国民ハ等シク第一線将兵ニ対シ、感謝ヲ新タニスルト共ニ、第一線将兵ヲシテ銃後ニ慮ナカラシメザルヤウ、挙国一致、益々細心ノ注意ト確乎タル覚悟ヲ以テ事ニ当ラネバナラナイ。

一月八日 晴

多田八川君海兵团入営ノ見送リス。

一月九日 晴

本年度入営者（十四年兵）入営ヲ見送リス。

一月十一日 晴

応召者浅田・梅田・前田・森各君入営見送リス。

一月十二日 晴

浅田保男君即日帰郷ス。

森脇・梅田・棟源君召集解除。

梅本良一君、十二月二十四日中支〇〇戦線ニ於テ名誉ノ戦死ノ通知、午後一時半頃、聯隊区司令部ヨリ通知アリ。各大字世話係リニ通知、参集ヲ求ム。詳報ナシ。

森脇・桜田・棟源君、召集解除、帰還サル。

世ハ様々、一方デハ戦死ノ報ニ驚カレ、又一方デハ無事帰還ヲ喜ブ家族アリ。何ト云フ被肉ナ世相

デアラウ。英霊ヨ安ラカニ眠ラレンコトヲ。

一月十三日 曇リ

午後七時ヨリ各大字世話係リ各一名宛、小島宅ニ参集、種々打合セヲナシ、ソレヨリ梅本君ノ霊前ニ参拝ス。戦死ニ依ル家族会ノ方針ハ、従前通りニ各大字別ニシテ（三ヶ大字宛）忌日毎ニ参拝。会ヨリ霊前ニ乾物ヲ供物ス（代価三円）。

当夜中野新助君、内地病院入院（病氣）ニ依リ見舞（家庭）ヲナス。見舞金一円ヲ贈呈ス。

一月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。

尚当夜ハ東名柄豊川清之君応召ニ依ル、武運長久祈願、及ビ江南戦線ニ於テ名誉ノ負傷セル吉村明・山本幸治・吉川康太郎君並ビニ中野新助君ノ病氣入院ノ平癒祈願祭ヲモ併行。

【欄外追記】森脇片上喜和君召集解除／青陽攻略戦十二月二十四日

一月十八日 曇リ

午後七時ヨリ割宛大字森脇・豊田・宮戸会員、梅本良一君ノ初七日ニ参拝。

一月廿五日 曇リ

午後七時ヨリ割宛大字会員一同梅本良一君ノ二忌日ニ参拝。寺田森稔君召集解除。

一月廿九日 曇リ

東名柄丸山正一君父死亡。葬儀ニ代表ニテ池口角治郎・小島重太郎両氏参列。香料一円也ヲ呈ス。

二月一日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭並ニ植村勇・上山寅雄・谷口春雄三君ノ病氣平癒祈願祭執行。

上山寅雄君内地帰還、入院ニ付キ、家庭ヲ見舞金壹円也ト御神饌ヲ呈ス。

尚当夜梅本良一君ノ三忌日ニ付キ割宛大字会員一

同参拝ス。

二月四五日 曇

近年ニナキ大雪。セキヤ吉村政治郎氏母死亡、葬儀ニ参列。香料一円也ヲ呈ス。

二月五日 曇

信用組合ヨリ出征兵士家族慰問品トシテ豆炭一俵宛下サル。

村軍人奉公会ヨリ同慰問金貳円宛下サル。中野両家ヨリ同慰問品トシテ荒巻サケ一本宛下サル。

二月八日 晴

旧正月一日ニ付キ祈願祭執行。同会計報告ス。

二月十三日 雨

関屋吉村基治君除隊（十日）サレ家族会へ金拾円也ヲ寄贈サル。

尚当日午前九時ヨリ各大字世話係一名宛小島宅ニ参集。年末ニ寄セラレタ御厚情ニ対シソレゾレ御礼ニ参上シタ。中野両家・信用組合・村軍人奉公会。

【欄外追記】

当日森脇世話係リ吉川忠治・梅田元治郎改選。

二月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行並ニ吉村基治氏ヨリ金拾円也、寄贈サレタノヲ報告、一同ト共ニ喜ブ。尚当夜午後八時ヨリ、梅本良一君ノ五忌日ニ割宛大字会員一同参拝ス。

二月二十二日 曇

名柄本久寺ニ於テ出征軍人武運長久祈願祭執行サレ、会員一同参列。御供物ヲ戴キ不参者ニハ各大字世話係リヨリオ届ケス。会ヨリミカン二貫目（一円五十銭）オ供ヘス。

尚当夜ハ梅本良一君ノ六忌日ニ割宛大字会員参拝ス。

二月二十四日 晴

増桜田勝治（応召）、名柄出羽光雄（現役）入隊。武運長久祈願祭執行。午後七時ヨリ。

二月二十九日 晴

豊田駒谷勘治、森脇吉川忠春両君、召集解除、帰還サル。

当夜梅本良一君の七忌日ニテ各大字世話係一同参拝。供物ヲ霊前ニナス（みかん一貫目、八十銭）。

三月一日 雪

午後七時ヨリ祈願例祭並ニ豊田吉村積治君原隊ニテ（奈良）発病ニ依リ祈願祭併行。当該大字世話係ヨリ見舞（家庭）ヲナシ金壹円也ヲ呈ス。

三月五日 雨

英霊故山ニ還ル。去ル昭和十四年十二月二十六日、江南戦線ニ於テ護国ノ神ト化シタ名柄大字梅本良一君ノ英霊ハ、春雨煙ル今日午後五時四十五分御所着列車ニテ、各種団体ノ奉迎ノ中ヲ無言ノ凱旋。小学校庭ノ忠魂碑前ニテ役僧ノ読経終へ、午後七時半懷シノ我家ニ安置サル。~~ヲ~~英霊淨正院義応忠郎居士。

三月九日 晴

午後七時ヨリ龍正寺ニ於テ各大字世話係リ参集。左ノ事項ヲ申合セス。

一、祈願例祭ニハ必ズ参拝

一、四月三日檀原神宮参拝

三月十一日 晴

午後一時ヨリ名柄小学校庭ニ於テ、故梅本良一君ノ村葬ヲ舟路船宿寺住職導師トナリ、仏式ニ依リ、各種団体参列、盛大ニ執行サル。

三月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行後、社務所ニ於テ四月

十日檀原神宮参拝、満場一致可決ス。雨天ノ場合ハ十一日参拝ノコト。

三月三十一日 晴

梅本良一君ノ百ケ日(戦死当日ヨリ)ナノデ、オ供物(線香箱入)ヲナシ、小島重太郎代表デ参拝ヲナス。

四月一日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。

四月八日 晴

森脇吉川義一、増木村忠雄両君応召、入隊ニ依リ(十二日)武運長久祈願祭執行。

当日午後一時ヨリ、村銃後奉公会主催村内出征軍人家族慰安ノ為メ、大正座ニ於テ万才大会ヲ開催、招待サレタ。

四月十日 晴

好晴ニ恵マレタ今日午前七時、一言主神社ノ赤イ鳥居前ニ会員一同集合、徒歩ニテ檀原神宮ヘ参拝。社前ニ於テ武運長久ヲ祈願ナシ、正午一同昼食ヲ共ニシ、ソレヨリ自由解散。各自思ヒ思ヒノ行動ヲトル。二千六百年祭ヲ迎ヘテノ檀原神宮ノ神苑、全国民ノ熱烈ナ労力奉仕ニ依リ、神苑ノ旧態ハ跡カタモナク、人ノ力ノ如何ニ威大ナルカヲ目ノアタリナガメ、只自ラ頭ノ下ル想ヒ。莊嚴、神々シサニ見ルカラ頭ガ下ル。今更ラナガラ人間ノ力ノ威大サニ驚クト共ニ敬服ス。

四月十一日 晴

植田忠治・吉川義一両君応召・入団ヲ御所駅迄会員一同見送リス(午後三時三十九分)。

四月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行後、社務所ニ於テ五月一日ノ祈願祭ヨリ、神酒ハ一回五合ヲ供ヘルコトヲ申合ス。事変ハ長期戦ニ入り物価ハ益々高クナ

リ、酒デサヘ四月十日ヨリ一升貳円五十銭瓶共ナレバ、貳円七十銭ニナッタノデ、我が会トシテモ~~忌ムヲ~~止ムヲ得ズ五合ニシタ。

四月廿五日 晴

今日ハ我家族会ニトリテ何ト云フ佳日デアラウ。突然木村杉三郎氏ヨリ、大阪桜井克巳氏カラト金壱封(二百円在中)ヲ持参セラレ、会ヘ寄附サレタ。聖戦三年有余、銃後後援益々固キヲ想ヒ、自カラ目頭ガ熱クナル。層一層出征家族ノ名誉ヲ穢サザラン事ヲ固ク固ク心ニ期シツ、。

四月廿八日 晴

五月一日入営ノ応召者諸君ノ武運長久祈願祭執行。終了後社務所ニ於テ、大阪桜井啓司氏(ママ)ニ会員各自ヨリモオ礼状ヲ出スコトヲ申合セス。尚会ヨリ代表ニテ大阪迄(桜井氏宅)オ礼参上ハ、中村兵治・小島重太郎両氏ニ委任ス。持参ノ礼状及領収証(金品)ハ小島重太郎氏ニ託ス。

応召者

東名柄 前田敏夫・中野栄蔵・丸山嘉十郎
寺田 高橋正・木村義雄
増 永野正義
森脇 梅田政雄

五月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。終了後社務所ニ於テ桜井氏ニ贈ル深謝文ロー読。

当夜ハ関屋吉村重一君、戦地ニオテ発病、入院ニ依ル平癒祈願ヲモ併行。

【欄外追記】~~当日ヨリ豊田世話係吉村進一郎
由本始治吉村徳三郎変更~~

五月五日 晴

大阪桜井啓司氏、御父親ノ廿七回忌ノ法事ニ名柄龍正寺ニ来ラレタノデ、帰途小島重太郎氏宅ニ招ジテ各世話係リ参集。会ヘ寄贈金ノ受領証及感謝状ヲ贈呈ス。

五月八日 晴

増徳田勝治君、応召入営ノ祈願祭執行。当日多田北村房蔵君ヨリ上海事変（十二年度ノ）写真帳及貴重ナ写真十数枚トヲ会ニ寄贈サル。又関屋吉村重一君及寺田木村正勝君病氣、内地病院入院ニ依ル見舞金各壹円宛ヲ当大字世話係リヲ通ジテ贈呈ス。

五月十五日 晴

午後一時ヨリ全会員（休会員モ）百九十名余一同、名柄小学校庭ニ参集。忠魂碑ニ参拝。ソレヨリ例ノ通り祈武運長久ノ長旗ヲ先登（ママ）ニ、各大字神社巡拝。最後ニ一言主神社ニ於テ、武運長久ノ祈願ヲナシ五時解散。当日ハ休会員ノ方々ニモ実費ヲ支出サル。会ヨリエビセンペイ一罐（二貫三百三十匁、百匁三十三銭）及スルメ三枚（二十五銭）、神酒二本（五円二十銭）ヲ神饌ス。
尚当日ハ多田吉川繁一、寺田木村忠雄両君ノ病氣平癒祈願ヲモ併行。

五月十九日 晴

今年ハ午後ヨリ学童相撲大会開催サレルノデ、午前九時ヨリ奨兵会（村）主催ノ招魂祭執行。会員モ参拝ス。今年ハ村カラモ家族会ニ招待ナク、招待席モナシ。村当局ノ銃後ニ対スル熱意モ愈々薄ク、向後思想的ニ及ボス影響甚大ナリ。此ノ頃村当局ノ銃後ニ対スル後援ノ冷タキ事ヨ。一例ヲ掲グレバ、毎月五日ノ村銃後奉公会主催ノ祈願例祭ニハ、参拝者ハ只我家族会員数名ニシテ、奉公会側ヨリハ一名位シカ参拝セズ。又会員ガ毎月一日、十五日又以外ノ日デモ神様参リヲシタトテ、生キテ帰ヘル者ハ帰ヘルシ、死ヌ者ハ死ヌノダ（村ノ当時者、特ニ名ハ秘ス）、コレガ村ノ要路者ノ言葉ダロウカ。非国民ダ。呼。モウ記スマイ。末代迄ノ日本国民トシテ、否我村住民トシテ屈辱ゾ。
又在郷軍人分会ニ於テモ、山田分会長辞職以来、幹部ノ統制乱レ、銃後奉公会定例集会（毎月二十

五日）ニハ参列スル模様ナク、前途益々寒心ニタヘズ。心アル士出デザルカ。ソノ外各種団体ニ於テモ皆然リ。

当時ノ村幹部及各種団体長

村会議員 増山田亀太郎、関屋補欠、名柄中村駒治郎・竹田達治郎、東名柄中野角太郎、多田北村久吉、寺田高橋鶴松。宮戸木村政治、森脇西村栄太郎・梅田駒吉、豊田木村保太郎

区長 中村格三郎・米田得三郎・久保徳三・中野千太郎・北村久吉・高橋幸太郎・木村作・梅田源治・小西勝治郎

在郷軍人分会長 寺下良一

軍友会長 吉村保太郎

国婦会長 浅田ミネ

村長 中村駒治郎

助役、兵事係 中田誠司

六月一日 晴

午後八時ヨリ祈願祭併ニ関屋東野久三郎君応召、入営ノ武運長久祈願祭ヲモ併行ス。

六月十日 晴

関屋東野久三郎君応召ニ依リ、伏見十六聯隊（輜重隊）ニ入営ヲ、午前十時二十八分御所駅発ヲ見送リス。当日森脇木本トク死亡。香料一円呈ス。

六月十二日 晴

森脇高橋義雄君母堂死去。葬儀参列。会ヨリ香料一円贈呈ス。

六月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。終了後社務所ニ於テ有江一男君戦病死（六月六日第一線病院ニテ、六月十四日原隊ヨリ役場へ通報）ノ忌日参拝大字別割宛ヲナス。割宛左ノ通り。

関屋・増・名柄 六月十八日、七月九日

東名柄・多田・寺田 同廿五日、同十六日

宮戸・森脇・豊田 七月二日、二十三日

注（割宛日ノ当該大字ノ家族半数ヅ、参拝スルコト）

尚帰途寺田・増・関屋・東名柄・名柄ノ各大会員一同有江君ノ霊前ニ参拝ス。霊前ニ供物（三円盛物）ス。

六月十八日 時（ママ）

有江君ノ二忌日ニ割宛大会員ノ半数（宅ガセマイノデ）参拝ス。

六月廿五日 曇リ

有江一男君ノ三忌日ニ割宛大会員参拝ス。

七月一日 雨

午後八時ヨリ祈願例祭、並ニ森脇島田滋信君応召武運長久祈願、及ビ森脇梅田保君、第一線ニ於テ発病入院ニ依ル平癒祈願祭ヲモ併行。尚当夜社務所ニ於テ多田吉川繁一君、内地病院入院ニ依リ（当該大字世話係リヨリ）金壹円也ヲ贈呈ス。

七月二日 雨

有江一男君四忌日ニ依リ、割宛大会員参拝ス。

七月九日 曇リ

有江一男君五忌日ニ割宛大会員一同参拝ス。

七月十五日 雨

午後八時ヨリ祈願祭並ニ再度ノ応召勇士米田櫓男君ノ武運長久祈願併行ス。

七月十六日 雨

有江一男君ノ六忌日ニ割宛大会員一同参拝ス。

七月二十三日 晴

有江一男君満中忌ニ割宛大会員一同参拝ス。霊前供物（線香一箱）ス。

七月二十八日 晴

再度応召勇士東名柄豊川清之君ノ武運長久祈願祭執行ス。

七月卅日 晴

平井駒一・吉村二郎ノ両君無事帰還サル。我家族会ノ大国旗モ事変以来一言主神社々頭ニケイヤウシテ来タガ、風雨下闘カヒ追々破損シタノデ、仲仕島井公之助ニ依頼、新シイヲ購入、八月一日カラ又掲揚スルコトニシタ。大国旗縦八尺、横六尺、代価十円、仲仕賃五十銭。

前村長中村駒治郎氏、病氣ニテ本月初旬辞職。本月廿五日現村長高橋幸太郎氏就任サル。

八月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭並ニ再調大国旗ノ入魂式ヲナス。

八月十日 雨

福岡喜久治・前田忠四郎・井上藤五郎三君ノ応召、武運長久祈願祭執行ス。

【欄外追記】十三日 晴 中野両家及役場銃後奉公会ヨリ家族慰問ニソーメン一貫目宛下サル。当日各大字世話係リ各一名宛ニテ中野両家及役場へオ礼ニ行ク。

八月十四日 晴

東野久三郎・梅田政雄・梅田勝治・永野正義・前田敏夫・丸山嘉十郎諸君召集解除。

八月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。地方ノ旧盆前、長柄夜市デアッタガ、各家族会員急ガシイ中ヲ多数参拝ス。

八月二十日 晴

午後八時ヨリ龍正寺ニ於テ各大字世話係参集。左ノ事項申合せス。

不参 森脇世話係リ・寺田世話係リ

一、午後三時小島宅集合。中野両家及役場へ家族へ中元慰問ノ礼ニ行クコト。

一、廿二日午後五時桜井健治氏ノ遺骨ヲ出迎フコト

一、同廿三日御通夜ヲナシ供物ヲスルコト

一、同廿五日葬送ノコト。以上ハ世話係リ。

一、九月一日一言主神社参道路清掃。午後一時神社大鳥居前集合。

一、英霊追弔会執行。日時ハ寺ト打合セスルコト。

八月二十二日 晴

午後五時半ヨリ龍正寺前ニ各大字世話係リ参集。桜井健治氏ノ遺骨ヲ出迎ヒ、奉安所木村杉三郎氏宅ニ奉迎ス。会ヨリ盛物（三円ノ乾物）一箱ヲ供ス。

八月廿三日

午後八時ヨリ各大字世話係リ一同及ビ名柄会員一同打揃ッテ桜井健次氏ノ霊前へ参拝ス。

八月廿五日 雨

午前十時ヨリ桜井氏ノ告別式ニ一同参列。香料不要。

九月一日 曇リ

午後二時ヨリ会員一同赤イ鳥井前ニ参集。ソレヨリ新体制下ニフサハシイ、杉並木神社々前ノ清掃、労力奉仕ガ始メラレタ。清掃終了後、会員一同社前ニ参列。武運長久祈願及ビ福岡計治君戦傷平癒祈願祭ヲモ併行。伊藤氏ヨリ寄贈ノ神酒一本、センペイ壺罐（五円位）トヲ各自分配。午後五時頃解散ス。

九月十日 晴

森脇梅田保君病氣、内地帰還入院ニ依リ、小島重太郎氏・当該大字世話係リト共ニ家庭見舞ニ行キ、見舞金一円也ヲ贈呈ス。尚当日宮阪治男君ノ一週

忌ニ付、仏前へ供物ヲナス（仏前一円也）。

九月十五日 晴

例年ノ通り神社ノ秋祭りナノデ午後一時ヨリ会員一同参拝ス。

有江一男君英霊故山ニ還ル。午後四時二十分御所駅着ノ列車ニテ無言ノ凱旋。各種団体及ビ会員一同御所駅迄出迎フ。丁度百ケ日ニ懷シノ故山ニ無言ノ凱旋。英霊ヨ永シヘニ安ラカニ眠ラレン事ヲ。尚当日百ケ日ノ霊前供養（~~ナシ~~勝利ナシ）一円ヲナス。

九月十六日 晴

午後八時ヨリ各大字世話係リ及ビ名柄大字会員一同有江君霊前ニ参拝ス。尚当日森脇梅田俊信君召集解除帰還サル。

九月十八日 曇リ

英霊永ヘニ眠ル日。

午前九時ヨリ名柄校々庭ニ於テ仏式ニ依リ有江一男君ノ村葬執行。各種団体及家族会一同参列。壮厳裡ニイトモ盛大ニ行ワル。

九月二十五日 晴

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ清水師導師トナリ、英霊ノ御写真モ共ニ祭り、左ノ十一氏ノ追弔会第三回目ヲ本会主催ニテ営ム。当夜現在休会会員モ多数参列。又村長高橋氏モ臨席。サシモニ広キ本堂モギッシリト、清水師ノ読経ニ唱和シテ心行ク迄唱名ヲトナヘ、御冥福ヲ祈ッタ。尚当夜ハ名柄大字四年以上ノ女生徒モ参列。君ガ代合唱。可レシナル女生徒ノ海行カバノ合唱ニ、満堂只セキトシテ声ナク、ズイキカッコウノルツボト化シタ。読経終了後、会員帰還兵士ノ（鳥井・植村・吉村一郎）実戦談アリ。盛会裡二十時過ぎ解散。尚各大字世話係リ別間ニ於テ、村長高橋幸太郎氏及分会幹部諸氏ト会談。向後共ニ協力、益々銃後ヲ全フスルコトヲ約シテ十一時頃家路ニ着タ。当夜ノ諸費

鳥井弘

用、遺家族宛ノ案内状並ニ英霊ノ贈名、焼香順位
左ノ通り。

前略

支那事变モコ、ニ意義深イ第三年ヲ迎ヘマシテ、
吾々銃後国民ノ奮闘ハコレカラダト確信致シマス。
長期戦下、新体制ニ処シテノお互ヒ会員ノ心構ヘ
ハスデニ出来テ居ラレル事ト想ヒマス。今年ハ大
変延ビ延ビニナツテ誠ニ申訳モアリマセン。

来ル九月二十五日午後七時ヨリ（名柄龍正寺ニ於
テ）、英霊ノ追弔会ヲ相営ミマスノデ、万障オ繰合
セノ上、御参拝下サイマセ。尚御面度ナガラ御子
息ノ英霊ヲ安置致シタイノデ、近々オ写真ヲ拝借
ニ参リマスカラ、其ノ節ハ宜シクオ願日申シマス。
先ハ御案内迄。 家族会

英霊ノ贈名（焼香順位）

尽忠院誠誉勇健居士	少尉	桜井健次
義誉忠烈芳勲居士	軍曹	北村芳信
同 清節仁道居士	伍長	中島清一
同 誠心一道居士	同	森一義
浄心院義応忠良居士	上等兵	梅本良一
義誉清忠一玄居士	同	有江一男
新坂元義嶽良忠居士	同	宮後治雄
義誉英信忠雄居士	同	吉村忠雄
英誉良雄居士	伍長	北村（仲川）良雄
忠瑤院薫烈日重居士	同	橘重太郎

俗名 浅田清治

軍馬・軍犬・軍鳩・諸靈魂

費用細目

一、金拾円 塔婆料

一、金五円三十銭

（六銭ノマンナ十個箱入、一箱五十三銭）

遺家族十家族ヘ志

一、金壹円 仏前ノ生花、中野利吉氏ニ依頼

一、金貳円 番僧二人ヘ寸志

一、金三円

二銭マン重百五十、仏前盛物、富永弘

一、金四円 エビセンベイ壺貫目、同井関弘

一、金三円二十銭 鉛筆四打（一打三十三銭ノ割）

一、金壹円二十三銭

ローソク五十匁二本・十匁六本、八百竹弘

一、金五銭 御所万々堂通話料池角弘

合計三十一円拾銭也

十月一日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭及吉川静雄忠一君ノ病氣平
癒祈願ヲモ併行。

【欄外挿入】十月十日 午前九時ヨリ奉公会主催
出征軍人武運長久祈願並ニ奉公会旗入魂式ニ会員
参列ス。

十月十五日 晴

秋祭りナノデ例年ノ通り午後一時ヨリ祈願例祭執
行。並ニ応召ニ依ル入営者三谷留太郎・安川常治
郎両君ノ武運長久、並ニ中野栄造君安慶ニ於テ右
目負傷、平癒祈願祭ヲモ併行。宮戸大字御輿参拝
ヲ拝ミー同アマ酒ヲ戴キ、午後四時頃解散ス。今
年ハ宮戸大字ノ御輿モナカナカ威勢ヨク、新体制
ニフサハシキ参拝振り。

【欄外挿入】十月廿日 有江秀雄・西川忠利君召
集解除帰還ス。

十月二十五日 晴

名柄龍正寺ニ於テ午後七時ヨリ各大字世話係リ参
集。小島重太郎氏母堂病氣見舞ノ件ニ付キ集会。
世話係リ一同小島宅ヲ訪レ見舞フ。
当夜名柄世話係久保・末吉兵後変更ス。

十月廿九日 雨

午後八時ヨリ信用組合ヨリ家族会ヘ空俵ノ配給ノ
件ニ付キ役場ニ於テ集会ス。左ノ通り割宛ス。

一、農家ノ出征兵家族ニ限り一軒宛五本半ノ割ニ
テ分配ス。合計四百十三本。

増十二人六十六本 関屋六人三十三本 多田六人

三十三本 東名柄八人四十四本 寺田九人四十九本 宮戸五人二十八本 森脇十二人六十六本 豊田十八人五十五本 名柄七人三十九本 計四百十三本（一俵二十五銭ノ割）

十一月一日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭及ビ十日再応召ニ依ル入営者前田敏夫・中野修・丸山嘉十郎・吉川芳信・森田重雄・横田正雄・高橋正諸各君ノ武運長久祈願祭ヲモ併行。

十一月三日 晴

名柄龍正寺ニ於テ午後八時ヨリ、家族会ノ祈願例祭ヲ、村銃後奉公会ヨリ祈願祭ダケスルコトヲ申出デアルニ依リ、ソノ件ニ付キ相談ス（各大字世話係リ参集）。左ノ通り決シ、十五日ノ例祭ニ会員一同相談スルコトニ決ス。

一、毎月一回、一日ニ祈願祭執行ノコト

~~一、実費徴収但シ入会費三十銭ハ納入スルコト~~

一、十二月分ヨリ実費ノ徴収ヲ~~中止スルカ又ハ~~五銭ニ減額スルコト

尚中野佐一郎君夫人及ビ子供・丸山正一君姉ノ病氣ニ付キ家庭慰問（当該大字世話係リ）及見舞金壹円也ヲ各家庭ニ分配ス。

【欄外挿入】十一月十日 晴 西城喜代治君召集解除。

十一月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭並ニ宮戸島田三蔵・木村利正両君ノ戦傷及ビ病氣平癒祈願祭ヲモ併行。終了後社務所ニ於テ左ノ重要事項ヲ協議、満場一致可決ス。

一、十二月ヨリ祈願例祭ハ銃後奉公会ト協力、実行ノコト

一、向後（十二月ヨリ）祈願祭ハ毎月一日、一回トス

一、向後（十二月ヨリ）祈願例祭及ビ臨時ノ祈願祭

並ニ毎年ノ英霊追弔会ノ諸費用ハ銃後奉公会側ヨリ支出サレルコト

（注 本日一日ノ村定会ノ席上、奉公会ヨリ家族会ニ話ガアリ、新体制ニ准ジテ向後毎月一日、一回ヲ祈願例祭トナシ、オ互協力シテ長期抗戦ニ対応シテ出征軍人ノ武運長久ヲ祈ルヤウ、申越サレタノデ、家族会トシテモ奉公会ト協力シテ実行スルコトヲ約ス。会トシテノ事業ハ従来通り継続シテ行ク事ハ論ヲ待タズ）

一、新入隊者祈願祭ハ廿八日執行

十一月廿八日 晴

午後七時ヨリ十五年徴集ノ新入隊兵全部ノ武運長久祈願祭執行。家族会祈願例祭及ビ臨時ニ行フ祈願祭並ニ追弔会（年一回）ハ今日限リトナシ、向後ハ銃後奉公会ト協力ナシ、ソレ等ニ対スル費用ハ奉公会側ヨリ支出シテ下サルコトニナッタノデ、向後（十二月分ヨリ）実費五銭也ヲ徴収スルコトニ満場決議ナル。

本年度（十五年徴集）入隊者名（現役兵）

梅田勝延 米田輝夫 高村太郎 木村保 島田清一 西川五郎 井上武夫 高村義光 木村三司 米田静夫 池口亥一 西川静男 吉村光雄 中村隆義 梅田政憲 辻本善三郎 桜井健一 梅本精二

十二月一日 晴

銃後奉公会ト協力後、初メテノ祈願祭執行。従来通り多数会員参拝。尚当夜吉村明君ノ戦地ニ於テ負傷、平癒祈願祭執行ス。

向後入営者・応召兵並ニ現役入隊者共、新体制ニ即応シテ見送りハ学校迄トナレリ。又祝旗ハ町内ヨリ又ハ大字ヨリノ交差サレタ日ノ丸ダケトナシ、以外ハ絶対ニ廃止サレタ。

十二月十七日 晴

豊田高橋歳一君、原隊（内地）ニテ戦闘訓練中負傷入院ニ依リ、大字世話係リヲ通ジテ家庭慰問及見

昭和 15 年

舞金ヲ呈ス。当日東名柄中野利吉氏、一ヶ月半以前ヨリ眼病ニテ静養、加療中ニ付キ、慰問及見舞金ヲ呈ス。持参者池口角治郎・小島。

十二月廿日 晴

午後七時ヨリ龍正寺ニ於テ各大字世話係リ参集。
十五年度ノ事業報告書及ビ慰問文、学生慰問文ヲ
同封投函出来ルコト皆手伝ッテソノ晩ニ投函ス。
全部八十三通。四錢切手張ル。

十二月二十三日 雨

左記諸氏病氣及負傷ニ付キ、当該大字世話係リヲ
通ジテ家庭慰問及見舞金各壺封贈呈ス。森脇梅田
元治郎、関屋吉村竹治郎妻、増高村源吉

十二月二十四日 雨

名柄梅本良一君ノ一週忌ニ付キ、仏前供物トシテ
金壺封小島代表ニテ参拝、呈ス。

十二月二十九日 晴

宮戸木村源治氏（利正君父）死亡葬儀。小島代表シテ悔ヲ申上ゲ、香料金壺封ヲ呈ス。

十二月卅一日 晴

鷲尾定雄君召集解除。

2024年3月

奈良県立図書情報館編・発行

2024 年 6 月第 2 刷

奈良県庁文書 1-S32-39d

『市町村廃置分合一件 (24)』より

